

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	川口市立青木中央小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	4	4	0	23	33
児童数	115	131	130	106	138	141	0	761	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた、きめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2年生・国語 伝え合う力を育てる上で、「読む」「書く」「話す」力の基礎となる学年であるため。 ・ 3、4年生・算数 子どもの理解度に差が出やすい教科であり、また、高学年への基礎固めのために重要な学年であるため。 ・ 5、6年生・算数 子どもの理解度に差が出やすい教科であるため。 ・ 5、6年生・理科 学校として、これまでの当該教科に関する専科、TTによる指導の実績があるため。
--

(2) 年次ごとの計画

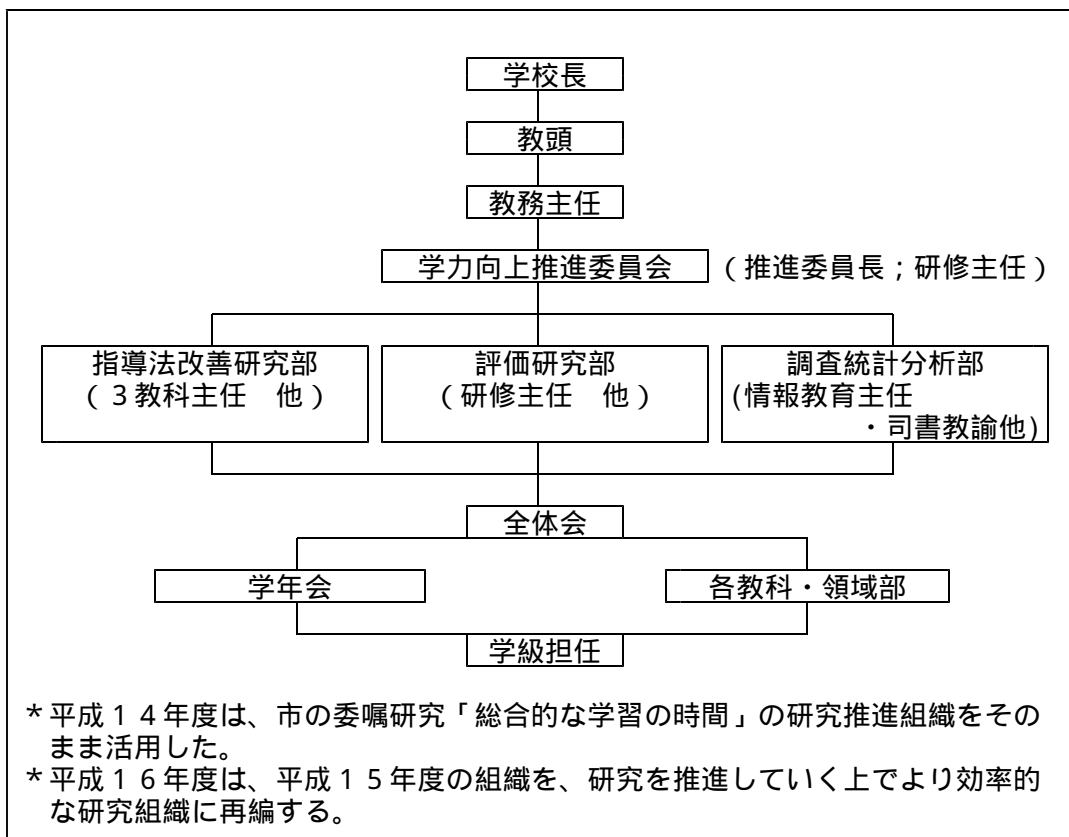
平成14年度	<p>テーマ 少人数指導の導入による指導方法の工夫改善</p> <p>研究の見通し(仮説) 少人数指導を導入すれば、教師が一人一人の子どもと向き合い、その活動の様子から「今ある子どもの姿」を敏感に見取り、指導することができ、一層の学習効果を高めることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 「学力」についての共通理解 児童の実態(習熟度)の把握 少人数指導の導入の成果と課題の明確化 ア 3年算数全時間(1学級を2名で担当) イ 4年算数週2時間(1学級を2名で担当) ウ 5、6年理科 単元により担任とのTT又は課題別学習</p>
--------	--

	<p>テーマ より効果的な少人数指導の充実と指導方法の工夫改善</p> <p>研究の見通し(仮説)</p>
--	---

平成 15 年度	<p>教科の特性を生かした指導方法を工夫すれば、「確かな学力」を身につけることができるであろう。</p> <p>* 「...指導方法・指導形態を工夫すれば...」であったが、「指導形態」は「指導方法」に含まれるものと確認し、削除した。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>教科の特性を生かした指導方法の研究 教員の指導力向上のための授業研究 教材開発 評価を中心に年間指導計画の改善 子どもの自己評価力・自己教育力の育成 家庭・地域との協力 組織・指導体制の工夫改善</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>個に応じた、きめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>教員の指導力を高め、教科の特性を生かした効果的な指導方法を工夫すれば、「確かな学力」が身につくであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>教科の特性を生かした指導方法の研究 教員の指導力向上のための授業研究 教材開発 指導と評価の一体化を目指した年間指導計画の工夫改善 学校の指導力、子どもの学ぶ力、家庭・地域の教育力の向上 （子どもの自己評価力・自己教育力の育成、家庭・地域との協力） 組織・指導体制の工夫改善</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

【国語科】

TTによる学習指導・評価を行うことで、個に応じたきめ細かな指導をすることができるようになってきた。
相手・目的・条件・方法・評価を児童が意識することで、伝え合う力が少しずつ身につけてきた。
継続的に行ってきた5分間の活動が、さまざまな場面で生かせるようになってきた。

【算数科】

習熟度別学習においては、児童自らコースを選択することにより、学習意欲を持続させることができた。
単元ごとの指導計画の中に予想される反応を明記したことにより、的確な支援と評価ができ、自分なりの考えをもたせることができた。
振り返りを重ねることで、学習したことが整理でき、既習をもとに考えることや、数直線や図などを用いるよさなどにも気づくことができるようになり、自信をもって取り組めるようになってきた。

【理科】

多様な学習集団にTTでかかわることによって、支援が効果的に行われた。
導入時に効果的な事象を提示することで、児童の興味・関心が増し、学習の動機を明確にして、学習活動に対する見通しをもたせることができた。
自己評価を行うことで、自己の学習活動の様子を振り返り、次時への意欲につなげることができた。

2. 今後の課題

【国語科】

一層効果的な指導が行えるよう、さらに指導形態の工夫や、各学年の年間指導計画の見直しを行っていく。
基礎・基本を身につけさせていくために、さらに言語活動の教材開発に努めていく。
学んだことが生かせるように各学級や全校活動を設定するなど言語活動の取り組みを図っていきたい。

【算数科】

自分の考えをよりよいものにする意識をもたせ、比較検討の時間を充実させていく。
今年度の実践を生かして、より実態にあった指導計画を立て、評価にも工夫を加えて、個に応じた支援を充実させていく。

【理科】

より個に応じた指導を行うために、ゲストティーチャー・ボランティアティーチャーを含めた年間指導計画を見直していく。
児童が見通しをもって活動しやすいように、必要なものがすぐに取り出せ、活用できるような理科室内の環境を整備していく。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施（年1回）
児童・保護者の意識調査の実施、意識の変容の把握
評価規準の一層の明確化
毎学期の評価・評定の集約及び追跡調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度 公開授業・研究発表会実施予定（期日は未定）
平成15年度よりHPに掲載。
HPアドレス <http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/aokichuo-e/>

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有		無